

令和4年度 校内研究の概要

『未知・未体験のものに見通しをもってチャレンジする生徒の育成』（1年次）

～教育課程の工夫を通して～

1 研究主題設定の理由

本校は平成30年度から昨年度まで、研究主題『主体的に学び、共に高め合う生徒の育成～「見方・考え方」を働かせる学習活動の工夫～』のもと、生徒の学びを深めるために、各教科の本質に迫る「学習課題」に対し「見方・考え方」を働かせながら追究する学びを研究してきた。

令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果によると、本校の生徒は、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」や、「家で自分で計画を立てて勉強をする」の項目が全国、県平均を上回っている。これまでの実践を通して、教科の本質に即した魅力ある学習課題を設定したり、「見方・考え方」を広げる手立てを工夫したりすることで、生徒の主体的に学習に取り組む態度がある程度向上させることができたと捉えることができる。

しかし、「自尊感情」、「将来の夢・目標」、「失敗を恐れなくて挑戦する」、「人の役立つ人間になりたい」の項目は、全国、県平均を下回っており、生徒がこれからの社会を生き抜く力は十分とは言えない状況である。

今回の学習指導要領の改訂では、子どもたちが予測困難な社会の変化に主体的に関わり、未来の社会を切り開くための資質・能力の育成が求められている。

そして、一昨年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響で、幾度となく教育課程の変更を余儀なくされ、これまで当たり前のように行ってきた一つひとつの教育活動を見直し、厳選する必要に迫られた。まさに予測困難な社会の変化が起こったと言える。教育活動を見直し、厳選していく上で、私達教職員は「教育の本質とは何か」、「学校生活において生徒を形づくるものは何か」という問いに向き合うことになった。

これらの問いに向き合う中で、学力とは、「学校生活全ての総合力」であり、校内研究とは、授業研究のみならず、「生徒の学力を支える学校生活の全て」が対象になるのではないかという結論に至った。

そこで、今年度は、研究主題を『未知・未体験のものに見通しをもってチャレンジする生徒の育成』～教育課程の工夫を通して～とし、教育課程全般を研究の対象として、日々の教育活動を改めて価値づけていくことに取り組んでいきたい。

2 研究の目標

- **優しさ**・・・自他を尊重し、主体的に考え、行動できる生徒
- **逞しさ**・・・学びを生かし、夢や目標に向かって挑戦する生徒

3 研究の仮説

【大仮説】 授業改善に加えて、教育課程及び学校生活全般の改善が進めば、変化する時代を生きぬく力は向上する。

【小仮説】 …大仮説を具体化したもの

小仮説の例

- (1) 単元構成を重視して、①魅力ある学習課題の設定 ②対話的な学び ③振り返りについて授業改善に取り組めば、生徒は主体的に学び、共に高め合うようになる。
- (2) 教育課程を工夫し、生徒と教師のゆとりを創出すれば、生徒はこれまでに授業に集中して取り組み、教師はより質の高い教材研究に取り組むことができる。
- (3) 保健体育の授業を異学年混合の集団で行えば、異年齢の生徒をはじめとする多様な人々と積極的に人間関係を築く態度が形成される。
- (4) 学校行事のあり方を見直し、内容を厳選すれば、生徒につけさせたい力がより明確になり、生徒による自主的・実践的な活動が展開される。
- (5) タブレットや校務ソフト等の ICT 機器を効果的に導入すれば、生徒の個別最適な学びにつながり、教師も業務の効率化により質の高い教材研究に取り組むことができる。

4 研究の方法

- (1) 研究推進委員会を開き、研究のあり方について、検討、調整、確認を行う。また、職員会議や学年部会等で生徒理解や研究に関わる共通理解を図る。
- (2) 小仮説を実践・研究するための部会（マルシェ）を定期的に関き、小仮説・具体的な手立て等を検討し、研究を積み重ねる。
- (3) 10月に校内研究会を実施し、マルシェごとのミニプレゼンと、授業研究を行う。

5 研究の内容

教育課程全般を研究の対象として、教育活動ごとに仮説の設定・実践・検証を積み重ね、学校生活全ての総合力としての学力の向上を目指す。

6 研究の計画

- | | |
|--------|--------------------------------------|
| 4月 | 研究推進委員会にて、今年度の研究主題、研究方針、研究内容を検討 → 提案 |
| 5月～6月 | 校内研修会①、マルシェ立ち上げ、小仮説の検討、実践開始 |
| 8月 | 校内研修会②（小仮説の中間検証） |
| 10月21日 | 校内研究会（マルシェごとのミニプレゼンと、授業研究）…指導主事招聘 |
| 1月 | 研究推進委員会およびマルシェ部会にて今年度の成果と課題を確認 |
| 2月 | 研究紀要の発行 |
| 3月 | 校内研修会③（今年度のまとめ） |

令和4年度 校内研究のキーワード

未知・未体験

将来の予測困難な社会の変化に向き合う生徒達にとって必要となる、学校生活における新たな課題のことです。

見通しをもって

生徒が未知・未体験のものに取り組むために、計画を立てたり、方法を考えたりすることで主体的に学びを進めることです。

チャレンジ

これまでに身に付けた学力を活用・発揮して、未知・未体験のものに試行錯誤しながら取り組むことです。

優しさ

自他を尊重し、主体的に考え、行動できる生徒を目指します。

逞しさ

学びを生かし、夢や目標に向かって挑戦する生徒を目指します。

教育課程の工夫を通して

教育課程全般を研究の対象とします。

マルシェ方式

教育活動ごとに研究グループを設置し、仮説の設定・実践・検証を積み重ね、学校生活全ての総合力としての学力の向上を目指します。